

～生徒数最多・全国入賞者数最多～ 驚異の道場経営・極意皆伝



道場経営の成功法則

養正館館長
渡辺貴斗

【第31回】 自分の道場を建てる！（3）

住宅ローンを組む

★住宅ローンには審査がある

建築資金が充分あれば良いのですが、普通は必要最低限の自己資金を頭金にして、残りは銀行から住宅ローンを借りるというのが普通だと思います。

銀行は住宅ローンの審査を行いますので、あなたの収入が安定していて、今後も減るところか増えていく材料を示さなくてはなりません。ここ数年、入会者数が比例関数的に増えているデータがあると良いですね。他に、あなたの信用情報、勤続年数などもポイントとなります。

私はまず都市銀行2行に行きましたが、門前払いされました。次に、ある信用金庫に行ったところ、そこでも門前払いされました。実際は、こちらの希望額の半額しか借りることができないという返事でしたのでお断りしました。

最終的に4つ目の現在の信用金庫で全額借りることができました。その経緯を回想し、述べて参ります。

★銀行側と何度も協議

何度か、その信用金庫の支店長、副支店長と3者協議しました。最終段階に近づいてきたころ、設計士が作成した予算を見て、支店長が半額ほどの提示をしてきました。1階道場、2階自宅の建築で話してきたのに、「2階はやめて、平屋の道場にしませんか？」と言ってきたのです。私は、「ここまで話し合ってきて、最後にこの額では建築できません。1階道場、2階自宅の建築が大前提です」と語気を強めて発言したところ、いてもたってもいられない

感じで副支店長が急に立ち上がり、私との握手を求め、「渡辺先生、全額出します、一緒にやりましょう！」と言ってくれました。

支店長は目を丸くして茫然としていました。このやり手の副支店長は、大学時代空手道部に所属していたそうで、道場建築する私に、特別な思いを持ってくださったのだと思います。

★プレゼンの資料準備

当時170名の生徒数を倍の340名に増やせるという計画、全少入賞者が少しずつ出始め、かつ毎年その入賞者数を増やし続けていること、JKファンに私のことが取り上げられた記事（未だ連載は始まっていませんでした）、今後入会した人の月謝を引き落としする口座は全てこの信用金庫の口座に限定する（そうすると、口座を持っていない人は新規で開いてくれる）など、プラスになる材料を副支店長と一緒にかき集めました。

副支店長が“通常の10倍以上”の資料を持って、上層部との会議に掛け合ってくださいました。

★審査が通った！

副支店長が、「審査が通りました！普通はこの額は簡単には通らないのですが、渡辺先生の熱意に私までできそうな感じがして、うまくプレゼンできました！」とおっしゃっていたのを覚えています。

この副支店長がいなかったら、お金を借りることはできませんでした。何の根拠もありませんが、今後も生徒数はどんどん増えていき、必ず短期間で



ローンを返し切る自信がありました。ただ、そう思い込んでいただけですが、副支店長にその思いが伝わったのだと思います。

あのとき、私が思い描いていた将来像は、ほぼそのまま現実となりました。道場生の数も、試合の成績も、思い描いていた通りというより、それを上回る結果を出すことができました。おかげさまで、現在まで順調に返済を続けており、もうじき完済します。

★ローンは完済しない方が良い？

返済期間は短すぎると毎月の返済が大変になります。早くローンを終わらせて、自由の身になりたい気持ちもわかりますが、長期ローンになっても問題ありません。ローンが組めているということは、社会的な信用があるということです。ローンを完済しない方が良いメリットは、以下のようにたくさんあります。

●完済する分を事業拡大や投資に回せます。道場を増築する、駐車場を借りる、新 NISA で資産運用

に回す（ローンの金利を上回る利回りを期待できる）などです。

●あなたが死亡したり、高度障害状態になった時に、団信（団体信用生命保険）の保険金で残りのローンが全額返済され家（道場）が残ります。生命保険の代用として使えるので、残された家族は助かります。完済してしまうと、この保障が無くなります。

●住宅ローン控除の恩恵に浴することができます。控除期間内であれば、ローン額に応じた税額控除が受けられます。

●自己破産のとき債務を免責されます。

以上の多くのメリットから、ローンが残っていても大丈夫なのです。ただし、金利が高くなってきたとき、投資リスクが心配な人、高齢になってきたときなどは、完済してしまった方が良い場合もあります。住宅ローンは使わず、「クラウドファンディング」という荒業^{あらわざ}もありますね。

PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968 年 4 月 20 日生まれ。7 歳から研修会副会長・渡辺貞雄（父）に師事。

2001 年に父の町道場を継ぎ、2006 年からコーチングを導入した指導法に切り替えると、2010 年に全少優勝者を早々に輩出。その後、2014 年 7 名、2015 年 7 名、2017 年 9 名など、1 道場からの「全少の全国最多入賞者数」を少なくとも 8 年連続で記録する。

1 道場に 380 名の道場生が在籍し、道場経営でも全国一を誇る。100 回以上続いた JKFan での連載「ZENSHO に行こう」で、空手キッズの指導にコーチング理論を導入し体系づけた空手界の第一人者。東京大学大学院博士号を持つ異色の指導者でもある。



空手道場 養正館／静岡県沼津市本田町 11-12

Column

子供への声掛けと道場経営に役立つ！ 人生を変えるオススメ本！（第27回）

■吉田忍・山田将由著 『トップ1割の教師が知っている「できるクラス」の育て方』★★★★☆

「なぜあの先生の言うことだと子供は聞くのか？」と思ったことはありませんか？本書は優れた教師が自然と行っている授業の手法を、誰でも取り組めるよう分かりやすくまとめたものです。MEAT、振り返り、自分で決める、など、参考になる方法満載です。ここでは「振り返り」と「自分たちで決める」について取り上げてみます。

先生が「～しましょう」と提案するよりも、子供の口から共有できる方が価値が高まります。先生が言うてしまうと、やらされている感じになり子供たちはシラけてしまうからです。これを道場での指導に置き換えてみましょう。例えば、体験入門中の子達に帯の縛り方を教えた後、「皆さんは、自分で帯をしばれるようになりました。次からはお母さんではなく、自分で縛ってください」などと指導してしまいます。そこで、次のように言ってみてはいかがでしょうか？

「皆さんは、自分で帯をしばれるようになりました。さて、次から稽古に来る時は、帯はどうやって縛ってきたら良いでしょうか？」と問いかけてみます。すると、「お母さんが縛ろうとしても、触らないで、と言います」、「途中までは自分のできる、できないところからお母さんに縛ってもらいます」、「道場でも、自分のできるところまで縛って、その後は先生が先輩に『お願いします』と言います」などといった意見が出てきます。先生からの押し付けではなく、子供たち自身で考えたアイデアなので、素直に実行に移すことができるのです。このように、休憩に入る前に、その単元で習ったことを短時間で「振り返り」すると良いですね。その時に、指導者が答えを言うてしまうと「ルールの上を走らされていて、つまらない」と、子供たちは一気にやる気をなくしてしまいますので、自分たちの言葉で言わせるようにしましょう。その時に、望ましい発言が出なくても気にする必要はありません。